



令和6年10月22日
保医第519号

沖縄県医師会長宛て

沖縄県保健医療介護部長
(公印省略)

入院医療機関の役割分担について（通知）

平素より、本県の医療行政に対して御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、みだしのことについては、令和5年10月6日付保確第457-2号にて通知をしたところです。当通知がコロナ禍における役割分担表であったことから、各地区医療提供体制協議会でのご意見を踏まえ、平時の運用に更新することとしました。

令和6年8月6日付け保医第329号にて依頼しました役割分担の意向調査に対する各医療機関の回答を踏まえ、別添のとおりとりまとめました。

つきましては、別添のとおり県内病院に対し周知しておりますので、御多用中恐縮ですが、診療所及び各地区医師会への周知についてご協力くださいますようお願いいたします。

記

別添 【R6年度版】入院医療機関の役割分担（最終）

【R6年度版】入院医療機関の役割分担（更新）※更新箇所を青字表記しています。

参考資料 各医療機関の機能分化・連携のための取り組み

沖縄県保健医療介護部 医療政策課
企画班（担当：長浜）
TEL：098-866-2111
Mail：yamadmkk@pref.okinawa.lg.jp

入院医療機関の機能分担

令和6年10月時点

沖縄県全域

※1 太字は救急告示病院を表す。 ※病院機能等により、基本的に転院等に対応していない病院については、機能分担の対象外としている。

		急性期（A）	急性期（B）	回復期・慢性期
機能		<ul style="list-style-type: none"> ● ICUを有しており、心筋梗塞、脳梗塞、手術などの専門的治療にも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誤嚥性肺炎の治療などの一般的な内科治療に対応できる。 ● 増悪時の初期対応ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 急性期(A)(B)の転院先として、状態が安定した患者の受入れができる。
医療圏	北部	県立北部病院	北部地区医師会病院	宮里病院、勝山病院、北山病院、もとぶ野毛病院、
	中部	県立中部病院 中部徳洲会病院 中頭病院 ハートライフ病院	国立病院機構沖縄病院、宜野湾記念病院、北中城若松病院、中部協同病院、かんな病院、潮平病院、翔南病院、海邦病院、与勝病院、名嘉病院、ちゅうざん病院、なかがみ西病院	沖縄リハビリテーションセンター病院、北谷病院、屋宜原病院、北上中央病院
	南部	琉球大学病院 県立南部医療センター・こども医療センター 友愛医療センター、南部徳洲会病院	豊見城中央病院、与那原中央病院 沖縄第一病院、公立久米島病院、とよみ生協病院、沖縄メディカル病院 西崎病院	大浜第二病院、ウェルネス西崎病院、
	那覇市	那覇市立病院、沖縄赤十字病院 沖縄協同病院、大浜第一病院	おもろまちメディカルセンター オリップ山病院、小禄病院	大道中央病院、那覇ゆい病院、川平病院、琉生病院 沖縄セントラル病院、メディカルプラザ大道中央病院
	浦添市	浦添総合病院	牧港中央病院、嶺井第一病院、同仁病院	平安病院、嶺井第二病院まちなと
	宮古	県立宮古病院	宮古島徳洲会病院	宮古島リハビリ温泉病院
	八重山	県立八重山病院	石垣島徳洲会病院	かりゆし病院

入院医療機関の機能分担

令和6年10月時点

※1 太字は救急告示病院を表す。 ※病院機能等により、基本的に転院等に対応していない病院については、機能分担の対象外としている。

特定の診療科（沖縄本島）

		周産期センター（Ⅰ）	産婦人科を有する総合病院（Ⅱ）	産婦人科病院（単価）（Ⅲ）
周産期 ※再掲あり	本島	琉球大学病院 県立北部病院 県立中部病院 県立南部医療センター・こども医療センター 沖縄赤十字病院 那霸市立病院	中頭病院 ハートライフ病院 沖縄協同病院 友愛医療センター 南部徳洲会病院	うえむら病院 名城病院 糸数病院
	宮古	県立宮古病院		
	八重山	県立八重山病院		

		公的精神科病院	左記以外の精神科病院
精神科病院 ※再掲あり	北部	国立病院機構琉球病院	宮里病院、もとぶ記念病院
	中部		新垣病院、平和病院、沖縄リハビリテーションセンター病院 沖縄中央病院、いずみ病院、うるま記念病院、北中城若松病院
	南部	県立精和病院	平安病院、オリブ山病院、博愛病院、天久台病院、田崎病院、久田病院 嬉野が丘サマリヤ人病院、南山病院、糸満晴明病院、勝連病院

入院医療機関の機能分担

令和6年10月時点

沖縄県全域

※1 太字は救急告示病院を表す。 ※病院機能等により、基本的に転院等に対応していない病院については、機能分担の対象外としている。

		急性期（A）	急性期（B）	回復期・慢性期
医療圏	機能	<ul style="list-style-type: none"> ICUを有しており、心筋梗塞、脳梗塞、手術などの専門的治療にも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤嚥性肺炎などの一般的な内科治療に対応できる。 増悪時の初期対応ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期(A)(B)の転院先として、状態が安定した患者の受入れができる。
	北部	県立北部病院	北部地区医師会病院	宮里病院、勝山病院、北山病院、もとぶ野毛病院、
	中部	県立中部病院 中部徳洲会病院 中頭病院 ハートライフ病院	国立病院機構沖縄病院、 宜野湾記念病院、 北中城若松病院、中部協同病院、 かんな病院、潮平病院、翔南病院、 海邦病院、与勝病院、名嘉病院、 ちゅうざん病院、なかがみ西病院	沖縄リハビリテーションセンター病院、 北谷病院、屋宜原病院、 北上中央病院
	南部	琉球大学病院 県立南部医療センター・こども医療センター 友愛医療センター、南部徳洲会病院	豊見城中央病院、与那原中央病院 沖縄第一病院、公立久米島病院、 とよみ生協病院、沖縄メディカル病院 西崎病院	大浜第二病院、 ウェルネス西崎病院、
	那覇市	那覇市立病院、沖縄赤十字病院 沖縄協同病院、大浜第一病院	おもろまちメディカルセンター オリブ山病院、小禄病院	大道中央病院、 那覇ゆい病院 、 川平病院、琉生病院 沖縄セントラル病院、 メディカルプラザ大道中央病院
	浦添市	浦添総合病院	牧港中央病院、嶺井第一病院、 同仁病院	平安病院、嶺井第二病院まちなと
	宮古	県立宮古病院	宮古島徳洲会病院	宮古島リハビリ温泉病院
	八重山	県立八重山病院	石垣島徳洲会病院	かりゆし病院

入院医療機関の機能分担

令和6年10月時点

※1 太字は救急告示病院を表す。 ※病院機能等により、基本的に転院等に対応していない病院については、機能分担の対象外としている。

特定の診療科（沖縄本島）

		周産期センター（Ⅰ）	産婦人科を有する総合病院（Ⅱ）	産婦人科病院（単価）（Ⅲ）
周産期 ※再掲あり	本島	琉球大学病院 県立北部病院 県立中部病院 県立南部医療センター・こども医療センター 沖縄赤十字病院 那霸市立病院	中頭病院 ハートライフ病院 沖縄協同病院 友愛医療センター 南部徳洲会病院	うえむら病院 名城病院 糸数病院
	宮古	県立宮古病院		
	八重山	県立八重山病院		

		公的精神科病院	左記以外の精神科病院
精神科病院 ※再掲あり	北部	国立病院機構琉球病院	宮里病院、もとぶ記念病院
	中部		新垣病院、平和病院、沖縄リハビリテーションセンター病院 沖縄中央病院、いずみ病院、うるま記念病院、北中城若松病院
	南部	県立精和病院	平安病院、オリブ山病院、博愛病院、天久台病院、田崎病院、久田病院 嬉野が丘サマリヤ人病院、南山病院、糸満晴明病院、勝連病院

【参考】病院間連携アンケートにて回答のあった各医療機関の機能分化・連携のための取り組み

役割分担	機能分化・連携のための取り組み
急性期（A）	定期的な会議（地域医療支援病院運営会議、在宅支援交流会議等）の実施
急性期（A）	転院搬送（後方搬送）における事項
急性期（A）	下り搬送等の退院早期に向けた取り組みを院内協議中
急性期（A）	急性期在宅、下り搬送の取り組み。施設との連携、当院からの指導等により施設からの救急搬送減少に取り組んでいる。
急性期（A）	救急搬送された患者の状態を確認して、安定している患者を当日に急性期へ入院させず、地域包括機能の病院へ積極的に転院させている。
急性期（A）	急性期在宅、下り搬送の取り組み ・近隣の療養型病院、回復期病院と連携し、救急患者連携搬送を行っている。 ・また、地域ケア科を中心に地域の訪問診療・訪問看護と連携し、急性期在宅と下り搬送を行っている。 ・整形外科や神経内科では、近隣病院と定期的に合同カンファレンスを行い、患者の回復施設、自宅退院に向けて取り組んでいる。
急性期（A）	救急搬送患者の積極的な受入れ
急性期（A）	<p>【機能分化のための取り組み】 グループ内で2つの医療機関を開設しているが、それぞれの施設が強化する分野を明確化（機能集約、役割分担）し、地域完結型医療の提供に寄与するための医療機能強化を実施している。 地域医療支援病院・紹介受診重点医療機関という、紹介患者に対する医療の提供、精密な検査や入院・手術が必要な高度専門医療を提供するための体制構築を行っている。</p> <p>【連携のための取り組み】 ・外科オーブンシステムの設置 離島・北部地区の医療機関向けに、患者さんが、当院での手術を希望した場合に紹介外科医も手術に参加でき、医療の質の維持、外科医のモチベーション維持と向上を図ることを目的として、同システムを新たに構築した。 このシステムにおいて、患者さんが退院された後には、再び離島・北部地区にて、手術を含めた一貫した継続治療を提供できる。 ・広報活動 広報雑誌において、登録医の紹介、院内デジタルサイネージにおいて、提携医療機関検索機能を設置し、当院退院後に必要な提携医・クリニック・診療所の情報提供を通じた連携強化の取り組みに努めている。 ・地域医療機関との連携 当院のがん診療部門と地域の医療機関との密接な連携を目的とし、最新のがん情報について地域の各医療機関に定期的な情報発信を行っている。</p>
急性期（A）	下り搬送について連携施設と協定を締結し、連携を行う仕組みづくりを行っている。
急性期（A）	下り搬送
急性期（A）	<p>現在当院に救急搬送された軽症、中等症の患者に対し地域の慢性期へのくだり搬送を行っている。 コロナ患者に關しても、医師が訪問診療での対応が可能だと判断した場合は、入院前入院後に訪問診療に繋いでいる。 状態の落ち着いた外来患者に關しては、逆紹介を強化して地域の医療機関に繋いでいる。 急性期病院への紹介は断らないよう病院全体で取り組んでいる。 ダビンチを導入、心臓外科が入りより高度医療ができるようにしている。 地域の医療機関と定期的な話し合いを行なっている。 地域連携バスを活用している。 地域の医療機関と感染、医療安全など連携して活動している</p>
急性期（A）	病院、診療所、クリニックの訪問。登録医案内、医師会との情報交換。
急性期（A）	<p>くだり搬送 逆紹介 ロボット手術や心臓血管外科の新設など、今度医療を深める努力 救急の受け入れ地域からの紹介受け入れ 地域病院との定期話し合い 地域への出張講座での連携 地域連携バス</p>

【参考】病院間連携アンケートにて回答のあった各医療機関の機能分化・連携のための取り組み

役割分担	機能分化・連携のための取り組み
急性期（A）	救急患者転院搬送
急性期（A）	小児系の集中治療室（PICU,NICU,GCU）を有している。脳卒中センターを有し、県全体から患者を受け入れている。年4回、地域の医療者、住民と情報交換会を行っている。
急性期（A）	これからは高度急性期から在宅までの幅広い連携が必要。我々中小病院は急性期特化ではなく、急性期高齢者医療の担い手となる。
急性期（B）	急性期（A）病院ERからの緊急入院の受け入れ
急性期（B）	回復期のみでは、疾患が限られるため、施設の疾患ニーズにこたえられないことが、しばしばあり、収益面ではマイナスだが、やむなく一般病床に一部転換した。
急性期（B）	外来にて発熱患者の対応を実施する。病棟では、中部圏の急性期病院からの入院患者を積極的に受け入れている。
急性期（B）	近隣の医療機関や介護施設等との積極的な懇談の機会を設ける。 発熱外来（ドライブスルー方式でPCR検査など）、サブアキュートの強化と後方支援病院としての役割。
急性期（B）	急性期や在宅からの紹介を積極的に受け入れを行っている。また、一般外来や発熱外来でコロナ陽性となった患者の入院治療を実施している。
急性期（B）	急性期病院からの転院の受け入れ
急性期（B）	地域連携室の強化
急性期（B）	急性期病院が他院の地域包括ケア病床で受け入れてもらえないような看護必要度・介護度の高いある程度治療が必要な患者も当院で対応可能な場合は受け入れている
急性期（B）	円滑な連携を図るため、地域連携室を通して病院・施設を訪問。
急性期（B）	当院の役割・強みを近隣医療機関・施設へ連携室を通して訪問発信
急性期（B）	各医療機関との救急搬送連携の締結
急性期（B）	那覇市立病院 脳外回診(毎週火曜日)に、病棟長、身体科リハビリ課長と参加している
急性期（B）	高度急性期病院からの受け入れを強化し、搬送協定も那覇・南部地域の5病院と結んでいる
急性期（B）	協力医療機関との協定を結び下り搬送を積極的に受け入れを行っている
急性期（B）	当院は医師数の問題でICUは有していませんが、心筋梗塞や手術に関しては救急対応可能で専門的治療を提供しており、対応困難な症例については中南部の病院への相談・転院搬送を行っております。
回復期・慢性期	急性期病院から在宅へ受け入れを積極的に行っている。急性期がもっと在宅の受け入れの門扉を開いて欲しい。
回復期・慢性期	挨拶まわりや病診連携、病病連携を考える会を開催し定期的に顔をあわせ連携体制の確認を行っている。
回復期・慢性期	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院への訪問や職種間の連携に向けたコミュニケーションを開始している。 ・法人内の回復期(身体)と精神科(こころ)の強みを活かし、病棟間での相互連携を行っている。 ・おきなわ津梁ネットワークの活用。
回復期・慢性期	急性期病院への回診参加、後方連携施設・事業所の退院前カンファレンスへの参加
回復期・慢性期	急性期病院で治療を終了した患者の継続的医療処置（痰吸引、人工呼吸器など）が必要な患者さんを受け入れている。

【参考】病院間連携アンケートにて回答のあった各医療機関の機能分化・連携のための取り組み

役割分担	機能分化・連携のための取り組み
回復期・慢性期	地域連携室を通して、急性期病院と患者情報の共有化に努めている。
回復期・慢性期	がん患者さんで、標準治療が終了、または出来ない患者さんに対する相談やがんの代替治療をおこなっている。特に漢方薬処方やがん電磁波温熱治療（保険適用可）
回復期・慢性期	認知症専門診療
回復期・慢性期	働く人を支える
回復期・慢性期	積極的加療を希望しない、または必要でない患者様への在宅医療の提供、看取りを行っている。
回復期・慢性期	急性期での治療を終了したが継続的な医療行為が必要な患者を積極的に受け入れている。
回復期・慢性期	PET検査、放射線治療、MRIを他医療機関に紹介している
回復期・慢性期	急性期病院での精神科リエゾン診療
回復期・慢性期	急性期治療終了後の療養及びリハビリ目的の入院受入やレスパイト入院
回復期・慢性期	近隣の急性期病院の回診等に出向いて、積極的に連携を図っている
回復期・慢性期	急性期病院からの下り搬送患者の受け入れ
回復期・慢性期	地域内での急性期（A）（B）回復期・慢性期間での情報共有と相互協力関係の構築、「北部地区保健医療に関する意見交換会」の活用
—	精神疾患者の治療を要する患者に関しては受け入れるように努力している。